

□2月11日礼拝説教(隅野徹牧師短縮版)  
「過去の過ちに目を向ける」(詩編95:1~11)

今日の詩編95編の前半1~7節で告白されているのは、神がすべての創造主であり、すべての者の導き手、養い手であるということです。これを心に留めるなら、神がお嫌いになること、怒りを表されることがあるとご理解いただけると思います。

私たちの教会が属する日本基督教団は、実は戦前の政府の国策によって誕生した教団なのです。誕生した日本基督教団は軍備品を上納したり、侵略戦争でありながら、その勝利を教会で祈るように指示するなどしました。これらは明らかなき罪であり、「知らなかった。時代的にしかたなかった」では済まされない、神の前で、深い悔い改めをせねばならないことです。

1967年、日本基督教団は当時の鈴木総会議長の名で、「第二次大戦下における、日本基督教団の責任についての告白」を声明文として出しました。戦争時に国策によって合同させられたことによって誕生した日本基督教団が、今度はその過ちを二度と犯さず、神のみ旨にしたがって、この世に赦しの恵みを証しする群れとして歩むことを決心したのです。

今日の聖書箇所詩編95編で、神殿が再建され新たな歩みを始めるとき、イスラエルの民は神の救いの恵みに立ち帰り、過去自分たちが犯した大きな過ちを繰り返さないという決心を新たにしました。そのように毎年2月11日、私たち日本基督教団の各教会も、キリストの十字架と復活の恵みに生かされていることを確認し、自分たちの教団が犯した、神がお怒りになっている大きな過ちを二度と繰り返さないと心に誓い、あらたな旅立ちをする日にしようではありませんか。

今日の聖書の言葉を、胸に刻みましょう。神の御前にて自分を低くし、御心を尋ね求めて主にしたがっていきましょう。そして神のためにまたこの世のために、自分が為すべき務めが示されたなら、祈りつつ愛をもって行ってまいりましょう。(終)